

1. 単元名 The Story of Sadako (New Crown English Series3, Lesson 4)

2. 教科・単元で提案する「やりくりのたとえば」

本学年の生徒は、中学校で本格的に英語を学習し、この3年間で実際に外国人と交流をしたり手紙でやりとりをしたりするなど、英語を用いたコミュニケーションの場面を多く持ってきた。現在彼らは英語を単に教科として学ぶだけでなく、コミュニケーションのツールであることを実感し、意欲的にインプットを行おうと授業にも積極的に取り組んでいる。

しかし、実際のアウトプット活動の場面になると、自分の英語力に自信がもてなかったり、何から書いて良いか分からないと不安になったりする生徒も多い。アウトプットそのものに躊躇するのではなく、その質に対して生徒自身がやりくりしながら取り組ませるために、教師の支援の仕方もある必要がある。

英語科では、鳥取大学地域学部の足立和美教授が提唱されている LARGE GRAMMAR を利用した活動を毎時間のルーティーンとして取り組んでいる。何もない状態から英文を作り上げていくのではなく、教科書や参考となる英文を組み合わせたり、フレーズを用いて自分らしい英文を作るトレーニングをこなしていく。第3学年では授業の導入で行っている単語テストに関連づけた取り組みにしている。単語テストで取り上げた単語から3つ選び、その単語やフレーズを使って英文を作成する。英語表現に不安を感じる生徒に対して、すこし背中を押してあげる。そうすることで、英語で表現することに抵抗が少なくなり、書く意欲にもつながってきている。書かれた作文をみても生徒1人1人の個性の出た英文が見えることもあり、非常に興味深い。

さらにそのあと取り組む1分チャットでは、テーマだけ与えて1分間相手に自分の考えを伝えるペア活動である。ここでは話し手だけの活動にとらえず、聞き手がいかに話し手の話題を広げるかということにも意識を持たせている。相づちや聞き返しなど、様々なリアクションを用いることで1分間の語りをより豊かなものとなるよう意識づけている。

(1) 教師と教材

本単元で学習する主な文法事項は「call/make A + B」「It ... to 構文」である。英語を学習する者にとって英語の語順をきちんと理解することは難しいことである。そういった状況の中で5文型を用いた英文を学ぶ本単元は、中学生にとっても重要な単元である。知識として理解するだけでなく、アウトプットの場面を多く設定し、LARGE GRAMMAR を用いた手法で生徒に安心感を与えながら、負荷をかけていきたい。また本単元の最後には英文を要約する活動がある。一度学習した英文を自分の言葉でまとめたり、言い換えたりすることは、表現の能力を高めると同時に相手にわかりやすく伝えようとするコミュニケーション能力の育成にもつながると考える。

(2) 子どもと教師

昨年度は毎時間授業の開始時に歌を歌っていた。また様々な映像やニュースを紹介することで、英語がまさに生きた言葉であり、人と人とをつなぐコミュニケーションのツールであることを伝えるよう心がけてきた。またクリスマスシーズンには、姉妹校である英国 Newstead Wood School や世界の著名人に手紙やクリスマスカードを送るといった取り組みをしている。返事が返ってくると自分の英語が伝わる喜びを感じ、より一層英語力を身につけたいと努力する生徒も多くいる。改めて教師としての役割は場面ときっかけを与えることであり、そこで英語を習得する喜びを見いだせば、生徒は自ずと吸収しようとする姿勢をもつことが分かった。

(3) 子どもと教材

地域紛争やテロなど世界中のあらゆる場所で、争いの絶えない日々が続いているこの世界で生きている私たちにとって、原爆の恐ろしさや被爆してしまった少女の生き方について述べられている本単元を学習する意味は大きい。平和とは誰かに与えてもらうものではなく、自ら行動していかなければ維持できないものであることを自覚し、自分の言葉で平和について語ることを求めていきたい。また再び健康を取り戻せると信じ、懸命に折り鶴を作り続ける佐々木貞子さんの生き方を学び、千羽鶴の意味や平和の尊さなどを考えさせ、本単元で扱われる平和に関するフレーズなども習得させながら、自分の言葉で平和について英語で表現させていきたい。

指導にあたっては、ペアワークを基本とした形態で学習内容を深めていき、平和に関して意見交換をしたり、英語によるアウトプット活動の相互評価するような場面を多く作っていきたい。また本単元では英文の要約をねらいとするライティング活動にも取り組む。既習の英文を利用した要約活動から、最終的には様々なトピックスを自分の言葉で言い換えて相手に伝えるようなコミュニケーション活動に発展させていきたいと考えている。

3. 単元目標

- 教科書の本文を読み、平和について自分なりの考えをまとめ相手に伝えようとする。
- make A B を含む文を使って、相手が何をすると幸せになるのか正しく尋ねたり、相手の質問に正しく答えたりすることができる。
- it ... for ... to ... を使って、語と語のつながりやかたちに注意して勉強していて簡単なこと、難しいこと、楽しいことなどを相手に正しく伝えることができる。
- 佐々木貞子さんの物語について、概要や平和について大切な部分を正確に読み取る。
- 英文を読んで、自分の言葉で要約したり、言い換えたりすることができる。

4. 学習計画 (全8時間)

第1時 make A B , call A B の用法の理解と表現活動 …1時間

第2時 Part1 の内容理解、広島原爆についての理解 …1時間

第3時 Part2の内容理解 … 1時間

第4時 Read① 内容理解 佐々木禎子さんの一生と原爆の子の像の由来を理解する… 1時間

第5時 Summary Writing / Story Retelling 活動 … 1時間

第6時 Read② 内容理解 平和を希求する人々の活動について学ぶ … 1時間

第7時 Summary Writing / Story Retelling 活動 … 1時間 (本時)

第8時 Lesson 4のまとめ… 1時間

5. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・与えられた単語やフレーズを用いて、ストーリーをつくることができる。(表現の能力)
- ・英文を理解し、自分の言葉で要約や言い換えることができる。(表現の能力)

(2) 期待される生徒の様相

- A) 与えられた単語やフレーズに、自分の意見や考えを加えてよりよい英文を書くことができる。また、まとまった英文を理解し、自分の言葉を付け加えて要約し、相手に正しく伝えることができる。
- B) 与えられた単語やフレーズを利用して、意味の通る英文を書くことができる。また、まとまった英文を理解し、必要な情報をその英文から抜粋することで要約し、相手に伝えることができる。
- C) 与えられたタントやフレーズを組み合わせ、英文を書くことができる。またまとまった英文を理解し、その英文から必要な情報を抜粋して伝えることができる。

(3) 本時における「やりくり」

- ・与えられた単語やフレーズで、ストーリーを作る場面では、自分の考えやアイデアを盛り込みながら英文を作らせていきたい。また他の生徒のストーリーを聞くことで自分の英文を見直し、さらによりよいものにしようと努力する姿に期待したい。
- ・英文を理解し、自分の言葉で物語を要約したり言い換えたりする場面では、いかに相手にわかりやすく要点を絞った言い換えができるかに期待したい。その際、単に英文の羅列で終始するのではなく、つなぎ言葉などを駆使し、口頭で伝えることを主眼とした取り組みとしたい。

(4) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援 ※ 評価)

学習活動	教師の支援・意図・評価
<p>1. 前時までの復習</p> <p>2. アウトプット活動(個人→ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単語、フレーズの確認 ・ Expansion Activity(個人・ペア) <p>3つの単語・フレーズに自分のアイデアをつなぎ合わせて、新たな英文を作る活動</p> <p>3. アウトプット活動2(ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文の要約・言い換えの活動 <p>4. まとめ</p>	<p>○なるべく生徒1人1人の個性がでるような英文が考えられるよう、意図を持って語句を提示したい。</p> <p>◇まずはしっかり書かせ、その後ペア活動で表現させたい。</p> <p>◇相手の表現に対して、リアクションをしっかりと取らせるなどして、相互評価をさせたい。</p> <p>◆英文が作れない生徒は、教科書の本文を参考にするよう促す。</p> <p>※提示された話題について英語で適切に表現することができるか(表現の能力)</p> <p>○ペアでのコミュニケーション活動とするために、音読練習を充実させたり、つなぎ言葉や相手に確認するような表現もしっかり活用させる。</p> <p>◇相手に内容をわかりやすく伝えることが目的であることを確認させたい。</p> <p>◆書かれてある英文を抜粋することが、要約や言い換えの第一歩であることを伝え、表現しようとする意欲につなげる。</p> <p>※相手の言ったことを確認する表現やつなぎことば、相づちなどをやりくりしながら内容を正しく伝えられているか。(表現の能力)</p> <p>・ペアで相手が伝えようとしていた内容を、元の英文で確認し、お互いが伝えた英文が正しいものであったか確認する。</p>